

潜在変数モデリングの近年の展開 —モデル選択をいかに行うか？—

2024年1月18日（木）10:40 - 12:10
尚文館203講義室 一般公開・予約不要

本講演では、実際の調査や心理学を中心とした研究で見られる、因子分析モデル、構造方程式モデリングといった様々な潜在変数モデリングに関する近年の展開を紹介します。講演では

- 多数の項目を伴う回帰分析における測定モデル
- 複数の相の変量効果とランダム係数を仮定した混合効果モデル
- 縦断デザインに対して利用されるモデルの選択や推定
- 全国学力調査における項目反応モデルの運用

を中心に紹介します。各トピックでは共通して、実際場面でよく利用されているモデルの誤設定の問題が内在しており、個々の研究や実践においてモデル選択をいかに行っていくのかについて考えるきっかけになるでしょう。

講師 宇佐美 慧 氏 (東京大学准教授)



東京大学大学院教育学研究科修了、博士（教育学）。日本学術振興会特別研究員、筑波大学准教授を経て現職。専門は心理統計学、教育測定学。近年は特に、複数の対象に対して複数時点測定された「縦断データ」に対する統計的な分析を通じて、変数間の相互関係や因果関係の推論について精力的に研究を行っており、Structural Equation Modeling, Psychometrikaなどの海外トップジャーナルに多数の論文を掲載している。2015年には縦断データ分析のための入門的な書籍である「発達心理学のための統計学」（誠信書房）を出版。